

広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム 派遣留学報告書

	記入日 平成 28 年 7 月 3 日			
所属学部・研究科	教育 学部/研究科 3 年次 (留学開始時点)			
留学先大学	University of the Philippines (国名: フィリピン)			
所属学部・学科等名	OSA			
在籍身分	Cross-Reg(交換留学生)			
留学期間	平成 27 年 8 月 3 日 ~ 平成 28 年 5 月 31 日			
1. 渡航について				
ビザについて	<p>ビザの種類: 国内: 9(A)→現地: 47(a)(2)</p> <p>ビザ申請先: 9(A): 在日フィリピン領事館 47(a)(2): フィリピン大学の事務が代理で取得したため、詳細は不明。</p> <p>取得方法, 提出書類: 42(a)(2): 大学内のオフィスが代理で取得してくれるので、特になし。</p> <p>手続きに要した日数: 9(A): 十日間 (場合によってはそれ以上かかる) 42(a)(2): 不明</p>			
その他必要な事前手続き	大学から送付される種類を提出する必要あり。			
出国年月日	平成 27 年 7 月 27 日			
経路	関西国際空港 (KIX) → ニノイアキノ空港 (MNL)			
現地での出迎え	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (◎大学関係者 ・ その他) <input type="checkbox"/> 無			
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	授業開始前に留学生向けのオリエンテーション、また寮に関するオリエンテーションがある。			
帰国年月日	平成 27 年 5 月 31 日			
経路	ニノイアキノ空港 (MNL) → 関西国際空港 (KIX)			
2. 留学経費について				
所要経費	総額	785,000	円	
	内訳	渡航費	80,000	円
		保険料	170,000	円
		教科書代(学費)	5,000 (教材のコピー代)	円
		宿舍費	30,000	円
		食費	35,000	円
		その他 (雑貨 費) (交際 費) (交通 費)	50,000 50,000 50,000	円 円 円
3. 授業について				
2015 年 1 学期	8 月 3 日 ~ 11 月 28 日			

2015年 2学期	1月 18日 ~ 5月 19日
年 学期	月 日 ~ 月 日
年 学期	月 日 ~ 月 日
授業の概要について (カリキュラム, プログラム等)	基本的に留学生は自由に開講されている授業を受講できる。私は英語教育やフィリピンの教育事情に関する授業を受講していました。
単位互換希望の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ※有の場合, 所属学部支援室へ提出の単位認定申請書類のコピーを添付すること
学術面に関する後輩へのアドバイス	
4. 生活等について	
(1) 留学先の住居について	
住居の種類	<input type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他 ()
住居の広さ	約 13畳ほど 同居人の有無 <input type="checkbox"/> 有 (1人) <input type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> ガス <input type="checkbox"/> 水道 <input type="checkbox"/> 給湯 <input type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input type="checkbox"/> 水洗便所 <input type="checkbox"/> 暖房 <input type="checkbox"/> 冷房 <input type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input type="checkbox"/> インターネット <input type="checkbox"/> その他 ()
住居費	1ヶ月当たり 1,200peso(現地通貨) 約 3,000 円
住居を決定した方法	<input type="checkbox"/> 留学先大学の紹介 <input type="checkbox"/> 友人・知人の紹介 <input type="checkbox"/> 不動産業者 <input type="checkbox"/> その他 ()
留学先での住居全般に関するアドバイス	来年度から住居がリフォームされ、新しくなるとのことでしたので住環境についてはアドバイスできません。基本的に留学生向けの寮に住むことになり、日本人も多いので地元の学生との交流を目的とするのならホームステイなども考慮したほうがいいです。
(2) 医療について	
1日以上入院を要する 病気・怪我等を	<input type="checkbox"/> した <input type="checkbox"/> しなかった
入院した場合	により 日入院
留学に当たり保険を	<input type="checkbox"/> 掛けた <input type="checkbox"/> 掛けなかった
掛けた場合	<input type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> 留学先国 <input type="checkbox"/> その他 ()
掛け金は	年間 170,000 円 補償額 死亡 円, 入院1日 円 その他 ()
留学前後での予防接種 の必要の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
有の場合, その種類, 回数, 費用, 受けた医療機関名	B型肝炎、破傷風
日常的な健康について 不安が	<input type="checkbox"/> あった <input type="checkbox"/> なかった あった場合その理由:
留学先国の医療事情 (日本と比較して)	私たちのような留学生は日本人スタッフもいる大型病院を利用するので日本と比較しても問題ない。ただ、旅行中など首都マニラを離れているときに病気にかかると、安心して栄養できる病院を探すのは苦労するかもしれない。

留学先での健康管理, 衛生面について特に注意すべきこと	予防接種は必ず受けておく。また、大学内や寮にもたくさんの犬や猫がいるので、狂犬病には十分に気をつけておく。水や料理は日本と比較すると綺麗とはいえないので、十分に注意する。	
(3) 危険を感じた地域, 状況		
夜間は大学内においてもホールドアップが発生したこともあるので、十分に注意する。 またジプニーに乗ろうとする際にスリにあいかけた。荷物は常に自分の前に持つておく。		
(4) その他生活等に関して参考となる事項		
フィリピン料理は野菜が少なく、栄養面で不安に感じることもあるかもしれない。自分は何人かの友人と自炊をすることで食費を抑えながら栄養バランスのとれた食事をこころがけることができていた。 タクシーやトライシクルなどの交通手段を利用する際には、ぼったくられないようにする。 衛生面で気になることがおおいので、アルコール消毒液や、ティッシュ・トイレットペーパーなどを持ち歩くようにする。		
5. 帰国後の進路について		
卒業予定年月	平成 30年 3月 (当初の卒業予定年月 平成 29年 3月)	
卒業が遅れる見込みの場合, その理由	<input type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他 (具体的に:教育自習・教員採用試験等の関係により)	
現在の状況および今後の予定・進路等	就職 (教員)	
就職活動や留学前の単位取得, 教育実習等についての工夫	帰国後すぐに教育実習に行く予定であれば指導教員に説明会の代理出席をお願いする必要がある。	
6. 留学準備, 留学中に役立った書籍, ウェブサイト等		
書籍, サイト名	詳細 (出版社, URL 等)	コメント
7. 自由記述 (後輩へのアドバイス等)		
日本と比べてフィリピンでの留学生活はたくさん不便なことがありますし、嫌な思いもするかもしれませんが。しかし、私は留学を終えてそういう環境の中で頑張ってきたことで成長できたと感じますし、苦勞した経験もいい思い出となっています。 ぜひみなさんも困難を楽しめるようになってください。		

学習に関するレポート

一言「留学」と聞くと海外で英語を学んで…といったようなイメージがあるかもしれませんが。しかしHUSAプログラム海外の大学で学ぶということは英語学習のみではなく、たくさんのことを学ぶ機会を提供してくれました。

もちろんひとつめには言語学習があるかと思います。フィリピンではタガログ語と英語が公用語として使われており、小学校の時から英語を教科として学ぶと同時に英語を使って他教科を学びます。また新聞や映画などのメディアも多くはタガログ語よりも英語が使われており、「オフィシャルな場面では英語、日常会話ではタガログ語」といったような使い分けをしている人も多く見られます。大学においても授業中のグループワークを進める際や、ちょっとしたジョークを言う時にはタガログ語を話していますが、発表などにおいては英語で資料を作り、英語を話して発表しています。多くのフィリピン人は母国語として英語やタガログ語以外の言語（例えばセブアーノ語や、ビサヤ語）を持ちながら第二言語、第三言語として英語を使うことが多いこともあり、我々のような英語を学んでいる最中の者に対しての理解が深いように感じられました。言いたいことがなかなか英語で言えずに留学当初は悔しい思いをすることが多々ありましたが、クラスメートのフィリピン人は辛抱強く聞いてくれたり、意見を要約したりしてくれたりと色々と助けてもらいました。これは英語を母語としない国に留学することのひとつの強みではないかと思います。英語を自然と習得したネイティブと違い、彼らは英語を学習してきたので、例えば文法に関する知識や理解はネイティブの方よりも深いと感じることも多かったです。英語がそれほど得意と思っていない日本人学生でもフィリピンでの留学はそれほどハードルの高い者ではないですし、そして英語を母国語としない国だからこそ学べることもありました。しかしながら、フィリピンでトップといわれるフィリピン大学においても各学生の英語力には大きな格差がありましたし、タクシー運転手など高等教育を受けていない方々にはあまり英語をしゃべれない方も多く、英語に常に囲まれた環境で学習できるわけではありません。実際私もタクシー運転手と交渉をする際には簡単なタガログ語を交えていました。

次に、自分の専攻に関する授業を海外で受講することができたことです。私は英語教育が専攻でしたので、広島大学で学んでいることは基本的には日本の英語教育についてで、海外の教育について学ぶ機会はほとんどありませんでした。今回私がHUSAプログラムを通じて一番学びたかったことは、多くの人が英語を使うことのできるフィリピンではどのような英語教育がなされているのかを学ぶことであり、そのためには実際に現地の大学で教育の授業を受講することがよいと考えました。実際に教師を目指す現地の学生と学んでいると様々な点に驚かされますし、また日本では考えつかないようなアイデアを持って模擬授業を作っていたりします。彼らも私に日本ではどのような教育がなされているのかに興味を持って聞いてきました。こういった経験は海外の語学学校ではなく、大学で現地の学生と学ぶことによって初めてできる経験だと思います。

最後に、フィリピン大学内で学んだことだけではなく、留学の中で学べたことについて紹介します。一つ目は、自分の今持っている価値観や考え方が全てではないということです。日本は基本的にみんな同じ民族で同じ言葉話していますが、フィリピンでは200を超える言語が話され、また多様な民族が住む国家ですので、この国ではいろんな意見や考え方があふれています。時には衝突することもあると思いますが、お互いがお互いの違いを理解しながら生活しているのをたくさん見てきて、多様性について考えることが多かったです。また、海外で生活しているからこそ学べたことがありました。今回の留学中に日本文化をフィリピンの人に知ってもらおうというイベントを日本人留学生が中心となって開催し、その代表を務めさせてもらいました。その運営をしていく中で自分の国の文化について再発見することもありましたし、またいかにしてフィリピンの企業の方に私たちがやろうとしていることを伝えてスポンサーになってもらうか、またフィリピンの方々にどうやって日本の文化の素晴らしさを伝えようかとたくさん考えました。海外にいるからこそできる経験は確実にたくさんのことを学ぶ機会を提供してくれます。

生活に関するレポート

フィリピンにおける生活は苦勞することが多かったですが、そういった苦勞も含めて非常に充実したものであったと思います。いくつか苦勞した点や、良かった点を紹介します。

まず日本との大きな違いとして、発展途上国とされるフィリピンでは様々な点で不便さを感じました。例えば交通機関についてですが、首都マニラにおいても電車は3ラインしかなく、多くの人を利用するため混雑時は電車になるためだけに2~3時間も待たなくてはいけないこともあります。それ以外の公共交通機関としてはバスがありますが、外国人にはバス停に関係なく自由に乗り降りできるフィリピンのバスのシステムに慣れるのは苦勞しますし、ピーク時には主要な道路は大変混雑するので普段の数倍時間がかかることもよくあります。また公共の設備についてもとても綺麗とは言えず、公共トイレなどはほとんど見かけたことはありませんし、歩道橋の上はゴミがおおく異臭がするなんてことも日常茶飯事でした。また郵便局などの事務仕事はとにかく大雑把で適当で、なんどもびっくりさせてくれました。今ではこう言った苦勞も貴重な経験ができたと思いますし、後述しますがフィリピンには素敵どころがたくさんあるので我慢できたんだと思います。

良いところとして、真っ先にあげたいのがフィリピン人の人柄の良さです。外国人だけで出かけているときに何度も道にまよったりしましたが、その度に「大丈夫？」と声をかけてくれて道案内をしてくれたりしました。自分がわからないときは周りのフィリピン人にわざわざ声をかけてまでも自分たちを助けてくれようとしてましたし、その周りの人たちも親身になって助けてくれました。また、彼らはいつでも笑顔ではなしかけてくれますし、仕事中でも歌い始めたり踊り始めたり、熱帯国特有の明るい性格の人が多いフィリピンの方々と過ごすことはとてもハッピーでした。物価の安さにも驚かされます。特にやすいのが交通費と食費で、フィリピンでの生活に慣れると日本に帰ってきてから安易に物を買えなくなるかもしれません。（実際そうになりました。）この国の自然も非常に素晴らしく、首都のマニラを出るとどこにでもかなりきれいなビーチか景色のいい山があります。地元の人に連れて行ってもらってたくさんビーチやハイキングに出かけましたが、そのどれもが日本では見られないような素晴らしいものでした。

良い点も悪い点も含め、この国では日本とはまったく違う体験ができます。ぜひそれを楽しんでいただきたいです。